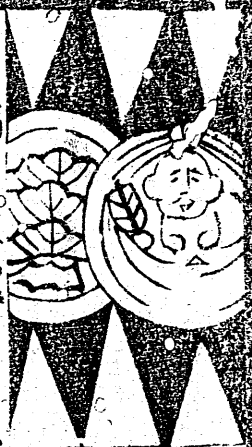


天保十三年正月

改元 和泉屋又三清



四條南側
大芝居二面
歌舞伎
狂言番附

怡 齋 齋 齋 齋

東都の味類

年と種く糸のまゝのりして衣はあまのりかほひのり

前巻

東都の味類

大席の
大切連

皇都の味類

我國の味類のちからをいふも大まゝのりかほひのり

第壹

鷹ヶ岡の 並木小 神多敷上の辰

第貳

吉田の 社地小 直方削急の辰

第参

島流の 故免小 見方對面の辰

第肆

外ヶ濱の 浦辺小 鶴ヶ對面の辰

第伍

安方町の 頓生小 主徒物縵の辰

第陸

街勅仗の 下向小 袷袋糸文の辰

第柒

東都路の 新園小 夫婦雜俵の辰

第捌

安達原の 黒塚小 老女球心の辰

切巻 大和國井手正總 上中下

上巻

家督定めよき眼のま合おのの野道み
珍奇御座は光の清寶紋糸の車

中巻

唐崎の別荘よ寄と人海の上仗の備前
道は智恵の眼君誘引の車

下巻

廓の御名は海波は浦の糸も実もあ
鏡の御名は海波は浦の糸も実もあ

湖出巻

竹市三好の文

三味線

竹市三好の文

同

竹市三好の文

後者替り名附別巻

竹市三好の文

狂言化者

近世狂言
井筒一舟
近世狂言
井筒一舟